

カーボンニュートラルの達成に向けた 《千歳市地球温暖化対策実行計画》

計画の主旨

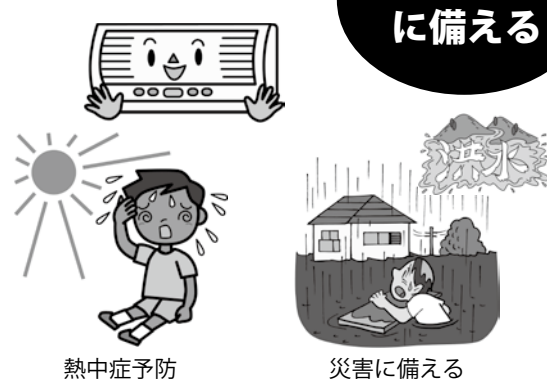
市民や事業者の皆さんと地球温暖化の危機感を共有し、温暖化を食い止め、本市の豊かな自然環境を後世に引き継ぐために、「千歳市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」をつくりました。本計画には温室効果ガスの削減目標や脱炭素シナリオを定めており、将来ビジョンとして掲げた「人と自然の輪でつながる」ゼロカーボンシティ「ちとせ」を実現するため、市民と事業者、行政が一体となって脱炭素化とまちの発展の両立を目指し、《気温上昇を防ぎ》、《気候変動に備える》ための取り組みを進めます。

気温上昇を防ぐ



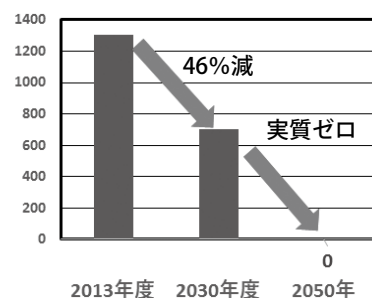
気温上昇を防ぐには、節電、再生可能エネルギーやエコカーの活用、森林吸収など、温室効果ガスの排出を減らすことが重要です。

気候変動に備える



生態系や水質の保全だけでなく、エアコン設置による熱中症予防や、気候変動による洪水などの災害リスクに備えることが重要です。

削減目標



【世界】：平均気温の上昇を産業革命以前に比べて 1.5℃に抑える

【国】：温室効果ガスを 2013 年度比で 2030 年度までに 46%削減する
2050 年までにカーボンニュートラルを実現する

【千歳市】：世界、国の状況を踏まえ、温室効果ガスの削減目標を設定
2030 年度：2013 年度比 46%削減（▲ 599 千 t-CO₂）
2050 年：実質ゼロ（カーボンニュートラル）（▲ 1,303 千 t-CO₂）

計画期間

2024 年度から 2030 年度までの 7 年間とし、必要に応じて見直していきます。

計画の対象

市内における、さまざまな事業活動や家庭から排出される二酸化炭素を対象とします。ただし、航空機は区域の境界を越えて移動するため、対象外となります。

特集

脱炭素社会をめざして

豊かな自然環境を後世に引き継ぐため、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする《千歳市ゼロカーボンシティ宣言》を2022年2月7日に発しました。その実現に向けた具体的な目標や取り組みを定めた《千歳市地球温暖化対策実行計画》が4月からスタートします。ここでは、《計画の概要》や《私たちができる取り組み》などについて紹介します。

【詳細】環境課主査（カーボンニュートラル推進担当） ☎(24)0590 📠(22)8851

地球温暖化対策としての カーボンニュートラル

地球温暖化の原因は、私たちが生活する上で欠かすことのできない電気やガソリンなどを使用することで発生する二酸化炭素を含む温室効果ガスの増加とされています。

このまま何も対策をしないと、2100年までに気温が5.7度上昇すると予測されています。

そのため、私たちが排出する温室効果ガスの《排出量》と森林などによる《吸収量》が釣り合った状態（カーボンニュートラル）をめざし、地球温暖化を食い止める必要があります。

この実現には、温室効果ガスの量を減らす省エネや、再生可能エネルギーの利用拡大、植林などによる温室効果ガスの吸収量増など、さまざまな取り組みが必要になります。



【千歳市温室効果ガス排出量】

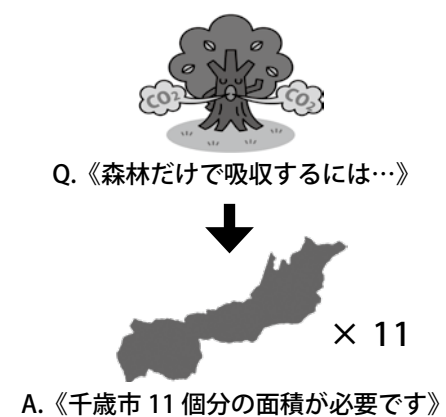
市の現状と二酸化炭素 ゼロに向けて

市全体で一年間に排出する二酸化炭素の量は、25mプールに換算すると約180万個分となります。排出量の半分は製造業からで、家庭と会社・行政からはそれぞれ2割、残りの1割は車や鉄道などの運輸部門からとなっています。

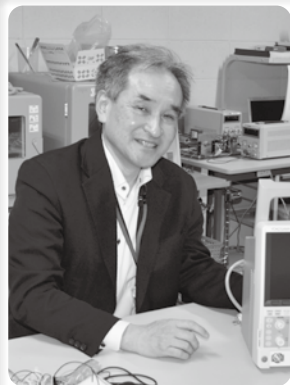
事業者や行政はもちろんのこと、各家庭での排出量の削減に向けた取り組みが必要不可欠です。

市の二酸化炭素排出量すべてを森林だけで吸収しようとする、千歳市の面積11個分の森林が必要となり、これは現実的ではありません。

そのため、市ではカーボンニュートラルの達成に向けた具体的な取り組みを示した《千歳市地球温暖化対策実行計画》をつくり、令和6年4月からスタートし、脱炭素社会をめざします。



知ることから始めよう



公立千歳科学技術大学
長谷川 誠さん

いま何が起きている？
私たちに何ができる？

《カーボンニュートラル》、《ゼロカーボン》と言われても、「何それ？」「自分には関係ない」と思うことが多いのではないのでしょうか？

でも、昨夏の異常な暑さを思い起こすと、何か大変なことが起きつつあると感じてもらえると思います。

何もしないでいると、やがて深刻な事態に直面する可能性がある。私たちの身の回りで起きているのは、まさにそのようなことです。そうした事態を防ぐには、いま何が起きているのかを私たち一人一人が正しく理解し、自分たちにできることは何かを真剣に考え始める必要があります。

この問題に対して、市民、事業者、市がプロジェクトチームをつくり、話し合いを進めてきました。その中で生まれた共通認識が、「自分事として問題をとらえ、できることを考え実行しよう」というものです。特に若い世代の皆さんには、自分たちの将来に直結する重大な出来事であると真剣に考えていただきたいと思っています。

《千歳市地球温暖化対策実行計画》の将来ビジョンのロゴ作成を高校生にお願いすることにしたのも、若い世代を巻き込みたいとの思いからです。ご協力いただいた高校生の皆さんに、厚く感謝申し上げます。

これらのロゴが示す明るい未来を、皆さんで力をあわせて、ぜひ実現していきましょう。

高校生による将来ビジョンのロゴが完成



千歳高等学校
竹林 くるみさん



見た目でもわかりやすく、環境に優しくキラキラと美しいちとせを表現するために、飛行機の排出物を水にし、この水が下のまちやツルにも届いて、循環しているように「0」を使って構成。「0」の真ん中の穴があいた部分では、そこから発生した水がたまっていくことによる、この先の自然界と人間界の共存への安心感を描きました。



千歳高等学校
亀井 咲希さん



「人と自然の輪でつながる」ゼロカーボンシティちとせ」ということで、ちとせをイメージする飛行機・ツルがあり、緑の輪でゼロを、その輪に囲まれている笑顔で人と自然の輪を表現しました。緑で街なみを表現することで、ゼロカーボンシティを表しました。

小中学生を対象とした“ちとせスクール of 「ゼロカーボン」”

市と市民団体「チトセコ」が協働し、次世代を担う子どもたちが、気候変動と自分たちの生活の結びつきについて理解を深め、「自分ごと」として理解し、地球温暖化対策を習慣として取り組めるよう、SDGsの取り組みの一環としてカーボンニュートラルの「出前授業」を行っています。



チトセコ代表 角谷 日花里さん



千歳とエコをかけた「チトセコ」は、ごみ拾いとビンゴをかけ合わせた「CLEANGO (クリーンゴ)」の主催をきっかけに、環境省のプログラムへの参加を経てスタートしました。

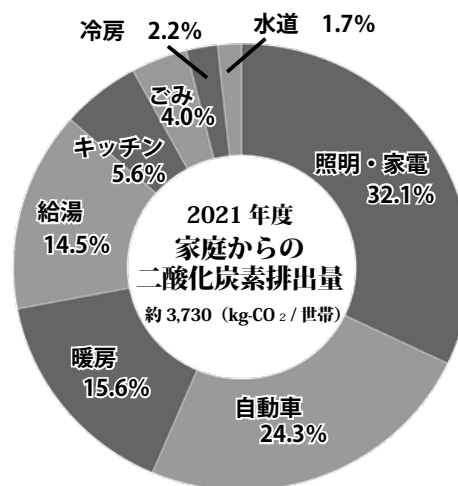
出前授業やイベントを行い、気候変動や環境問題が「ジブンゴト」になるように、楽しく「学ばざる」ことを目的に活動しており、市民のみなさんと取り組めたら嬉しいです！



【千歳市立泉沢小学校での授業風景】

私たちができること

家庭から排出される二酸化炭素排出量の内訳を知り、できることから始めましょう



家庭からの二酸化炭素排出量は、照明・家電 32.1%、自動車 24.3%、暖房 15.6%、給湯 14.5% となっており、これらだけで全体の 8 割以上を占めています。

省エネ家電への買い替えや、給湯温度の見直しなど、少しの心がけで、環境だけではなく、家計に優しい効果が期待できます。

わかりやすい例が照明の LED への交換です。同じ明るさを保ちながら消費電力を抑えることで、白熱電球からの交換であれば 1 年足らず、蛍光灯からの交換であれば 2 年強で購入代金の差額を回収することができ、その後も、電気代の節約や長寿命化による交換の手間が省けるなどの効果も期待できます。

日常生活から脱炭素型ライフスタイルを心がける必要があります。一つ一つできることから取り組んでいきましょう。

省エネルギー

エネルギーを効率的に使用することで、二酸化炭素の排出量が削減されます



LED



節電



適切な温度



適切な室温

再生可能エネルギー

化石燃料を使わず、自然由来のエネルギーを使用すると、二酸化炭素は排出されません



太陽光パネル



再生可能エネルギーで走る自動車



風力発電

※再生可能エネルギーを使用した電力料金プランの選択。

家庭でできる取り組み

森林吸収

森林などの緑が増えると、二酸化炭素が吸収される量が増えます



家庭菜園



緑が二酸化炭素を吸収



植林

行動変容

意識することで、行動が変わります



知ることが第一歩



公共交通機関の利用



エコバッグ



正しい分別